

平成30年 3月30日

舞鶴市議会  
議長 上野 修身 様

舞鶴市議会新政クラブ議員団  
幹事長 岸田 圭一郎

## 会 派 視 察 報 告

この度、会派視察を下記の要領で実施しましたので、報告いたします。

### 記

#### 1. 参加者氏名

岸田圭一郎（幹事長）、 鯛 慶一（幹事）、 眞下 隆史（幹事）  
和佐谷 寛、 水嶋 一明、 今西 克己、

以上6名

#### 2. 視察期間

平成30年 2月13日（火） ～ 平成30年 2月15日（木）

#### 3. 調査先及び視察項目

- 13日 安城市（議会におけるICT化について）  
（安城市さわやかマナーまちづくり条例について）
- 14日 焼津市（ドローンを活用した災害対策について）
- 15日 経済産業省（今後のエネルギー政策について）

#### 4. 経費

298,600 円

#### 5. 視察の概要

##### （1）安城市の議会におけるICT化について

対応者 安城市議会事務局 議事課長

安城市議会 坂部 隆志議員、法福 洋子議員、石川つばさ議員

##### 1) 安城市のICT化に至った経緯と概要

・安城市議会では、平成27年1月に議会基本条例が施行され、議会・議員のあり方を明らかにし、「安全で安心して暮らせるまち安城」を目指すとともに市民の福祉向上、及び、市政の発展に寄与することを目的に平成27年6月からICTの利活用を進めることとなった。そこで、更なる議会の見える化、効率的な議会運営、議会・議員の活性化などを目的として、「議会ICT推進プロジェクトチーム」を組織して活動することとなった。

##### 2) ICT化の取組状況

・安城市議会では、市民に開かれた議会の実現、効率的で迅速な議会運営、議会の活性

化、危機管理体制の強化、議員の資質向上を目指すため、その有効な手段のひとつとして議会においてICT技術の積極的な活用を推進されている。

・基本的な方向性および目的

- ①議会運営の効率化、活性化などの議会改革の推進
- ②ICTを積極的に活用した次代の議会運営
- ③市民と繋がるための市民参加と関心の向上
- ④議会情報をわかりやすく市民に公開

・目的達成への取り組み

- ①グループウェアとして、電子スケジュール、電子掲示板、サイボウズの導入
- ②電子会議システムとして、東京インタープレイサイドブックスの導入
- ③タブレット端末iPad（12.9インチ）の導入
- ④Wi-Fi環境の整備として、議場、各委員会室、会派控室など議会事務局を含めた議会フロアを試行整備

・現在までに取り組んできた事業

- |                     |                     |
|---------------------|---------------------|
| ①会議録のインターネット公開      | ②議会ウェブサイトの公開        |
| ③議会のケーブルテレビでの録画放送   | ④議会のインターネット録画配信     |
| ⑤議会だよりの電子化          | ⑥会議開催通知、各種案内の電子化    |
| ⑦質問の通告書、通告文書の電子化    | ⑧法規・判例検索システムの導入     |
| ⑨議員控室へのパソコンプリンターの配備 | ⑩議場、各委員会室、控室のWi-Fi化 |
| ⑪全議員にiPadの配備        | ⑫セキュリティソフトの導入       |

・安城市議会は、タブレット端末を持ち出して議員活動を行うことを前提とされており議会・庁舎内だけではなく行政調査、普段の議員活動で常に携帯することによって議員力の向上が図られている。また、標準のソフトはグループウェアとペーパーレス会議システムで、端末の初期設定は行うが、必要なソフトウェアは各議員で判断してインストールされており、運用、携帯、活用と市民への説明等、すべての議員の自己責任とされている。

### 3) ICT化に取り組んだ評価等

・安定効果として、市民からは「議会運営の見える化が図られ、開かれた議会となっている」と理解していただいている。さらには、議員からは、電子化にすることにより、ミニ集会、議会報告などで活用でき、市民への説明責任を果たすことが容易となったと評価を受けている。

・定量効果としては、議会運営の効率化と迅速性に取り組み、ペーパーレス化の推進、コピー・製本・差し替えなど事務事業の軽減、業務スピードの向上につながっている。

### 4) ICT化を推進していくにあたっての課題等

・市執行部との推進体制をいかに構築していくかであり、安城市議会では、これまで企画課、経営管理課、情報システム課を交えて様々な検討・提案をしてきたが、現状では議会と市との温度差が明確であり、更なる業務の協業面での検討が必要なこと。

・ICT化の運用に不得意な数名の議員の意識改革も必要なこと。

### 5) 今後の取り組む方向性

・安城市議会では、議員主導でのICT化の推進を目指しており、ICT化が議員をターゲットにした推進体制、ペーパーレス会議だけに特化することなくICT化のメリットを全体的に検討し、議会毎に議員主体で操作講習会を実施し、全議員のスキルを底上

げできるような議会風土の構築を目指す中で、タブレットを議場以外の議員活動に活用できる環境を整備して、ICT化の便利さを具現化していくことを目指されている。

## 7) 所見

・舞鶴市議会では、現時点では議員主導の体制とはなっておらず、議員個々のレベルに大きな温度差があると考えられる。この温度差を解消するためには、舞鶴市議会のICT検討会等が主体になって、研修会・講習会を積極意的に実施することで、全議員のスキルを底上げし、議員活動に有効的な手段であることを自覚し、ICT化への意識向上を図る必要があると考える。そのスキルアップを図ることが舞鶴市議会のICT化を促進するものと考え、我々新政クラブ議員団が率先して取り組むこととする。

## (2) 安城市さわやかマナーまちづくり条例について

対応者 安城市議会事務局 議事課長

安城市議会 坂部 隆志議員、法福 洋子議員、石川つばさ議員

### 1) 条例制定に至った経過と概要

・安城市としてこれまで議会提案の条例はなく、市としての課題が多い中、新しい課題を含む項目の絞り込みを行い、初めての制定に向けて取り組むこととなった。そこで、地元アダプト団体（環境美化団体）との交流・意見交換等を実施し、駅前等のゴミに対する課題を聞く中で、美化に対する住民意識の向上が必要と感じ、議会内会派の多数が共同し取り組みが始まった。

### 2) プロジェクトチームによる取り組み状況

・平成25年6月に、議会内会派の3会派（安政会、市政クラブ、新政みどり）から、（仮称）マナー条例制定プロジェクトの発足を議会に対して求め、平成25年7月に各会派の有志9名からなる「マナー条例制定プロジェクトチーム」（以下PT）が発足し、平成26年10月までに合計28回の打合せが開催され審議を重ねられた。

また、PTでは、先進地視察として東京都東村山市や千葉県柏市を訪れ、罰則規定を含んだ条例を目指すのではなく、住民意識を高める理念条例にしたい思いを高めた中で、安城市内現地の各種調査（路上喫煙状況の調査など迷惑行為等に対する住民意識のアンケート調査）や意見交換を実施し、その後条例素案を作成し、条例作成に向け努力され、全議員と執行部に向けた説明会が開催された。

### 3) 行政の方向性との関係

・地元説明会を計2回実施後、条例の啓発活動（朝・夕）を開始し、議員が中心となって積極的な啓発活動を実施、行政には広報等へ記事掲載を依頼した。また、「マナー条例制定PT」から「マナー条例推進PT」に名称変更を行い、推進に特化した活動を始める。

### 4) 条例制定した成果の考え方

・条文の内容の中の「市の役割」において、市民団体への協力・補助が含まれていることで、条例制定後の実質活動は、基本的にはアダプト団体を軸にした一般市民団体が中心となるよう誘導されており、そこに成果が表れてくるものと感じた。

### 5) 議会としての今後の取り組み

・平成27年4月1日をもって条例を施行することとなり、6月にはロゴマークを決定し、不定期ながらPT会議を開催し、条例PR活動を行っている。条例を制定した議員としては、マナー推進委員会に議員として参加することで、活動に協力をしていく。

## 6) 所見

・安城市議会では取り組む前から、議会全体で取り組む意思疎通ができていたことから、活動に対しても条文素案作成に対しても、全議員が前向きに検討や取り組みができたものと感じた。安城市でマナー条例を取り上げたのは、これまで市の大きな課題であり、若い世代が注目している課題であったことがきっかけである。舞鶴市においても、身体障害者等用駐車場の利用や手話の普及、点字ブロックの整備など、社会的弱者とのより良好な関係を築けるような、生活環境の確保が必要であると考えます。

また、条文の作成などについては、行政に依頼するのではなくPTメンバーを中心に議員が手探りで取り組み、行政が作成する条文との違いを鮮明にすることで、市民目線で市民がマナー向上に取り組む「決意」となった、議会独自の条文となっていたことも参考にするところである。

### (3) 焼津市のドローンを活用した災害対策について

対応者 焼津市議会事務局 主査

焼津市危機管理部危機対策課 係長

#### 1) これまでの災害対策の経過と概要

・焼津市においては、これまで、災害本部と災害現場の状況等の連絡は、無線で取り合うのみで災害現場の状況が把握しにくく、その対策として、災害現場の状況を視覚的に把握できる方法はないものかと模索されていた。

#### 2) ドローンを活用することに至った経過と現在までの活用について

・平成27年7月9日に発生した豪雨で、林道が20メートルにわたって崩落する事象が発生したことから、翌日、はしご車で調査を試みたが、電線や倒木で調査に支障をきたすこととなった。当時、災害現場に市長も駆け付けたが、その際、自治会長とドローンの必要性が話し合われた。

その当時、静岡県では県あげて防災総合訓練が実施されることとなっており、航空法も改正前だったので、まずは、災害発生時には視覚的に捉え、迅速な被害状況把握や適切な応急対応の検討に役立てようと20万円程度のドローン購入となった。購入後は、クレームやネガティブな意見はなかったが、市議会では不安視する意見があった。

#### 3) 災害時の運用と実績等

・ドローンは最も水に弱く、雨天時には、購入費100万円以上の雨天対応以外のものは飛行させることができず、また、風にも弱いということもあり、風速10メートル以上の時は飛行できないという弱点がある。そのため、火災時にはこれまで3回使用したという実績があるだけで、多くは災害発生後の状況調査などに使用されている

#### 4) 組織体制と操縦士の育成について

・防災航空隊BLUE SEAGULLSの組織は、隊長（危機管理部長）、副隊長（危機対策課長）、小隊長（危機対策係長）を中心に、危機管理部職員6人の一班、広報、農政、港湾、河川部局6人の一班の2反体制で構成されている。

2班体制としている目的の一つは、東南海地震など大規模災害時には、危機管理部職員で編成されている1班は災害対策本部での対応とし、危機管理部職員以外で編成されている2班は、各部局の部長の理解を経て現場で活動できる体制とするためである。

目的の二つ目は、ドローンの活用を災害対応だけでなく、道路・河川の状況確認、広報活動、農政への活用など、用途の拡大のためとしており、ドローン操縦士には、市長から辞令が交付され、他の職員への意識に対応されている。

#### 5) 今後の取り組みや課題等

・班編成を行ったときは、各部署からのバランスを図ったが、その後の人事異動等で、同部署に2人が配属となっており、バランスが崩れることが起こっている。

いま、国では「消防団を中心とした地域防災の充実強化に関する法律」のなかで、オフロードバイクとドローンを消防団員に提供することで、情報収集能力を上げようとする動きとなっているので、今後の動向を注視する必要がある。

#### 6) 所見

・舞鶴市議会で、現時点ではドローンは導入されていない理由として、操縦・操作するための電波に障害が発生する山岳地が多く、日本海側特有の天候や風の影響があげられ災害発生時には様々な条件をクリアーする必要性は理解できるが、災害後の人命の安否確認、道路・河川の災害状況確認などに活用できるのではないか。また、機種によっては予算等が多額になるとは考えるが、現場へのいち早い到達など情報伝達手段、鮮明な画像配信による現場状況把握など現場対応に役立つものとする。また、災害以外にも利用方法によっては他の予算等も節約できると考えることから有効的であるとする。

#### (4) 国のエネルギー政策について

対応者 経済産業省 資源エネルギー庁

電力・ガス事業部 原子力政策課 課長補佐  
原子力立地政策室 室長補佐  
ガス市場整備室 室長補佐  
資源・燃料部 石油・天然ガス課 係長

##### 1) これまでの国のエネルギー政策全般に関する取り組み

・3E+S→エネルギー安定供給と経済効率性エコノミクス&エコロジーの環境負荷観点から、原子力は必要と位置付けている。再生エネルギーとかガスとか石油などを含め全体としてバランスよくしていく。原子力発電だけではエネルギー政策とはならないが、残念ながら現在では再生エネルギーだけでもすべてを賄えることはできないと考えている。さらに、2010年震災前は、原子力への依存率は26%であったが、震災後2016年には2%となっている。また、2015年に依存度20から22%として、出来る限り省エネを行い、出来る限り再生可能エネルギーを取り入れて、不足分を原子力で賄うという観点でエネルギー自給見通しを公表している。

エネルギー基本計画を3年に一度改定し、2017年に議論が始まり、日本のエネルギー自給率は、OECD35か国中2番目に低い水準とされている。

##### 2) 原子力発電に対する取り組みと現状

・原子力発電のコストが高いのではと言われているが、震災発生以降、稼働率の低下による火力発電の炊き増しや、再生可能エネルギー付加金等により、一時、家庭用・産業用共に上昇した。原子力発電所の防潮堤や地震対策などで、追加安全対策の費用が上昇はしているが、資本費等では1Kwhあたり7.0円と震災前の5.8円より上昇した

が、長期間にわたり負担するため、発電単価への影響は限定的である。

Co2 排出量については、原子力発電所が停止して後は増えており、2013年には過去最高の排出量になっている。原子力はないに越したことはないという意見もあるが、再エネ一辺倒でも、また、化石燃料一辺倒でも駄目だと考えており、安全最優先で地元の皆様のご理解を得たうえで、原子力発電を利用していくことがエネルギー政策上必要と考えている。

### 3) 液化天然ガス（LNG）に対する取り組みと現状

・世界の天然ガス需要は着実に伸びてきている。日本においては、これまで着実に伸びてきたが、近年は横ばい状況である。LNGの供給の軸足はアジア・中東からアメリカオーストラリアの企業へ移行している。主なLNG基地と天然ガスパイプラインの状況は、やはり沿岸部に多く、太平洋側や瀬戸内海が多い。LNG基地から放射線状に導管を引いていき、大きな需要地まで供給するというように発展していく経緯がある東京、大阪、名古屋、九州などに供給しているのが現状である。

### 4) その他の資源（メタンハイドレート）の状況

・表層型メタンハイドレートは日本海側の多くに存在し、砂層型メタンハイドレートは太平洋側に多く存在している。メタンハイドレートとはメタンガスと水が高圧低温で氷状で存在している物質であり、日本周辺海域に多く存在していると言われ、将来のエネルギー資源の一つとされている。日本の領域に存在しており活用できることを期待している。表層型メタンハイドレートは、海洋基本計画の目標にも定められており、過去3年間日本海側を中心に資源量調査を実施し1,742か所を確認している。その1カ所には、天然ガスに換算すると2億m<sup>3</sup>と言われている。

平成28年度には5カ所、29年には新たに1カ所追加採択し、平成30年度の予算案として約227億円で回収技術の調査研究を行うこととしている。

### 5) 原子力発電・液化天然ガス（LNG）の課題

・原子力発電は、燃料投入量に対するエネルギー出力が圧倒的に大きく、数年にわたって国内保有燃料だけで生産が維持できる低炭素の準国産エネルギーとして、優れた安定供給と効率性を有しており、運転コストが低廉で変動も少ない。また、運転時には温室効果ガスの排出もないことから、安全性の確保を大前提に、エネルギー需要構造の安定性に重要なベースロード電源である。しかし、いかなる事情よりも安全性を優先させ、国民の懸念解消に全力をあげる前提の下で、原子力規制委員会の専門的な判断に委ね、規制基準に適合すると認められた場合は、国も前面に立って立地自治体等関係者の理解と協力を得て、再稼働を進めることとする。

大きな課題は、福島事故収束は道半ばで、今後社会的信頼の回復だと思っている。安全審査は継続中で、平時には、事故を見据えた防災や対応策を地元の皆様と連携して考えていく必要があると思っている。様々な個々の論点について議論を重ね問題解決に努力していく。

・ガスの小売り全面自由化を機に販売量における新規小売業者が増えている状況の中で、液化天然ガス（LNG）の導管整備指針を一昨年に策定し、それを踏まえて必要なところに導管を整備していく議論を進めている。当初から福井県には回答しているが導管整備指針を踏まえて事業者との調整がつけば議論をする会議を設置していくこととする。

## 6) 所見

・舞鶴市は、特に高浜原子力発電所・大飯原子力発電所に隣接していることから、福島原子力発電所の事故を受けて市民の信頼回復が必要な状況にあることから、再稼働においても国民・市民がわかりやすい説明を求めていく必要があると考える。また、エネルギー政策は国政であることから、事故に対しても再稼働に対しても国の立場の役割をしっかりと求めていかなければならないと考える。

・ガスパイプラインについては、京都府や近隣市ともしっかりと連携を図り、長い年月がかかるかとは考えるが、舞鶴市をエネルギー基地の拠点とすることで企業誘致など大きな成果があるものと考えられる。富山以西にはパイプライン網が整備されていないことを考えると、リダンダンシー機能の充実を図る必要もあり、京阪神地域へのエネルギー供給を図るうえで必要なことであると考ええる。

・メタンハイドレートに関しては、今は、国が主導する形で調査しているのが現状ではあるが、民間企業の事業として実施されることとなっている。しかし、メタンハイドレートは今後、大きなエネルギー源になろうと考えることから、舞鶴市としてどのような支援が適当なのか考えていく必要がある。

以上